

活動報告：常陸大宮市国民健康保険 美和診療所
病棟から在宅へ、新たなチャレンジ



秋根 大（あきね だい）
茨城県29期



自己紹介



皆様、足を止めて頂きありがとうございます。

茨城29期生の秋根 大
(あきね だい)と申します。平成26年4月で、卒業して丸8年になります。

今回は私の卒業後のこと、出身県の茨城県のことや現在の赴任地である美和診療所での医療についてご説明致します。

私のこれまで

★ 2006-2008

茨城県立中央病院(初期臨床研修)



研修医室で(2006)



自治医大 感染症科での短期研修(2007)

★ 2008-2010

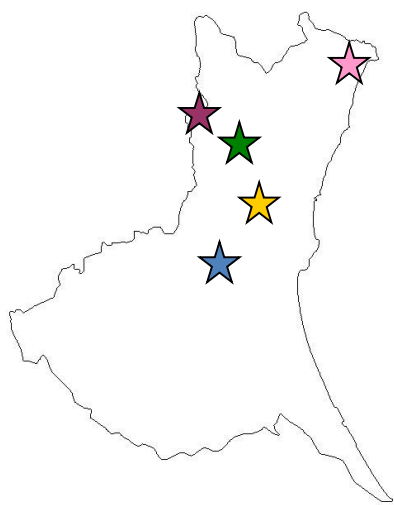
北茨城市立総合病院・内科

★ 2010-2012

常陸大宮済生会病院・内科

★ 2012-2013

水戸協同病院/筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター 総合診療科(後期研修)



総合診療科・救急科のスタッフドクターと(2012)

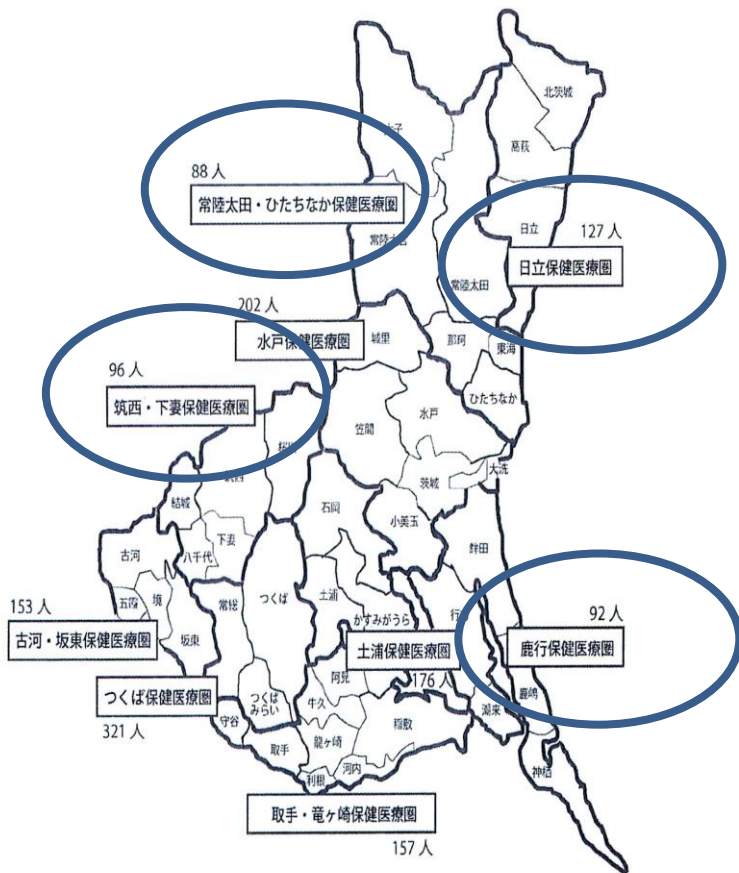
★ 2013-present

常陸大宮市国保美和診療所

茨城県内の医療状況の地域格差

全体的に医師数が少ない茨城県ですが、県内の地域格差にも特筆すべきものがあります。

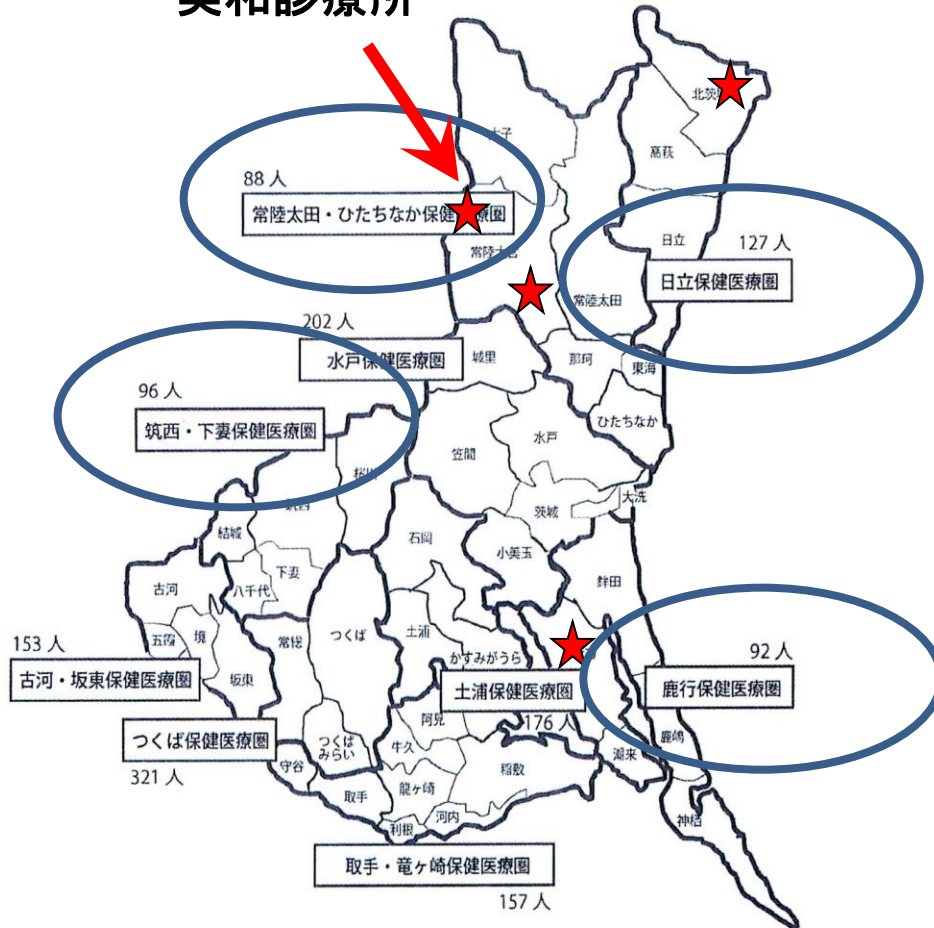
人口10万人あたりの医師数が全国平均の226人を上回るのは筑波大学を抱えるつくば保健医療圏のみで、県北部・県西部・鹿行地域では100人前後ときわめて厳しい状況にあります。



茨城県における二次保健医療圏毎の「人口10万人当たりの医療機関に従事している医師数」

茨城県卒業生(義務年限内)の 勤務する医療機関

美和診療所



茨城県の自治医大卒業生は医師数が少ない県北西部の医療機関を中心に派遣されています。

今年度からは沿岸部の鹿行地域の医療機関にも派遣を開始しています。

私の勤務している美和診療所は現在の義務年限内の派遣先医療機関としては唯一の無床診療所です。

茨城県における二次保健医療圏毎の「人口10万人当たりの医療機関に従事している医師数」

★ 平成25年度 茨城県から派遣された自治医大卒業生医師が在籍する医療機関
(初期・後期研修を除く)

常陸大宮の四季



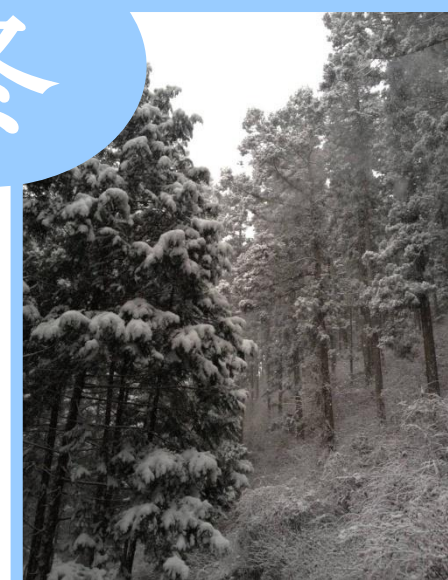
春



夏

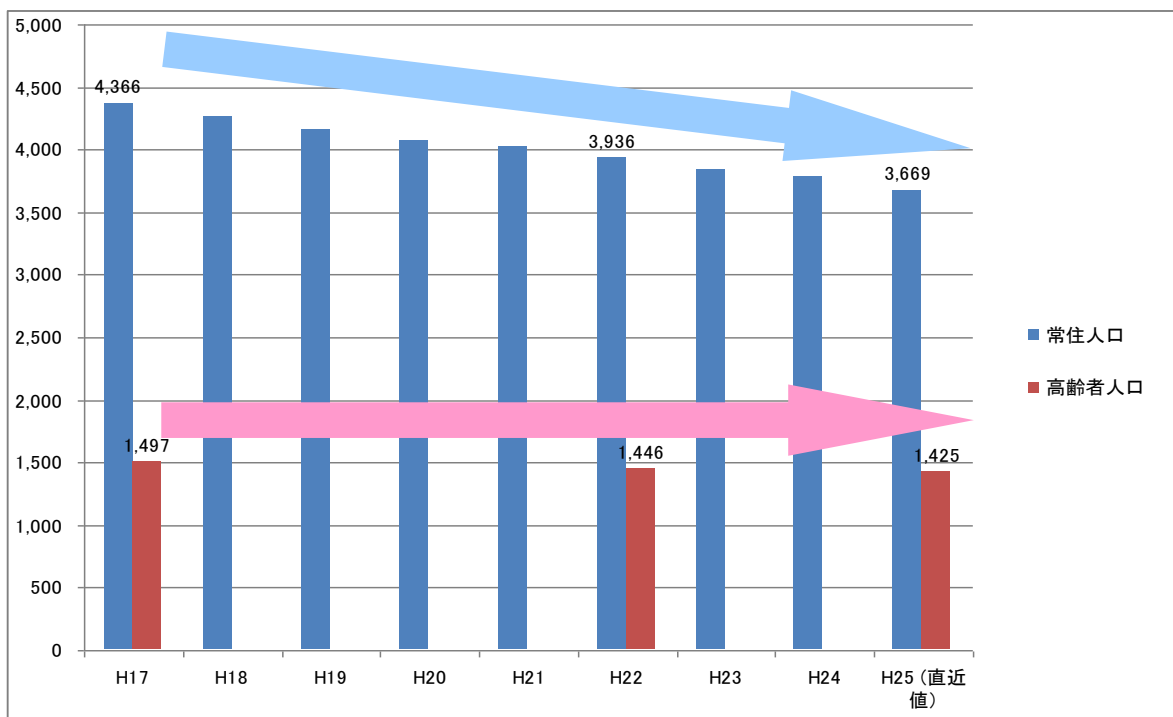


秋



冬

美和地区の高齢化



定住人口は8年間で600人強(約15%)減少しましたが、高齢者人口はほぼ不変です。このため、老年人口割合は平成17年に34%であったものが、平成25年には39%まで上昇しました。

常陸大宮市 国民健康保険 美和診療所

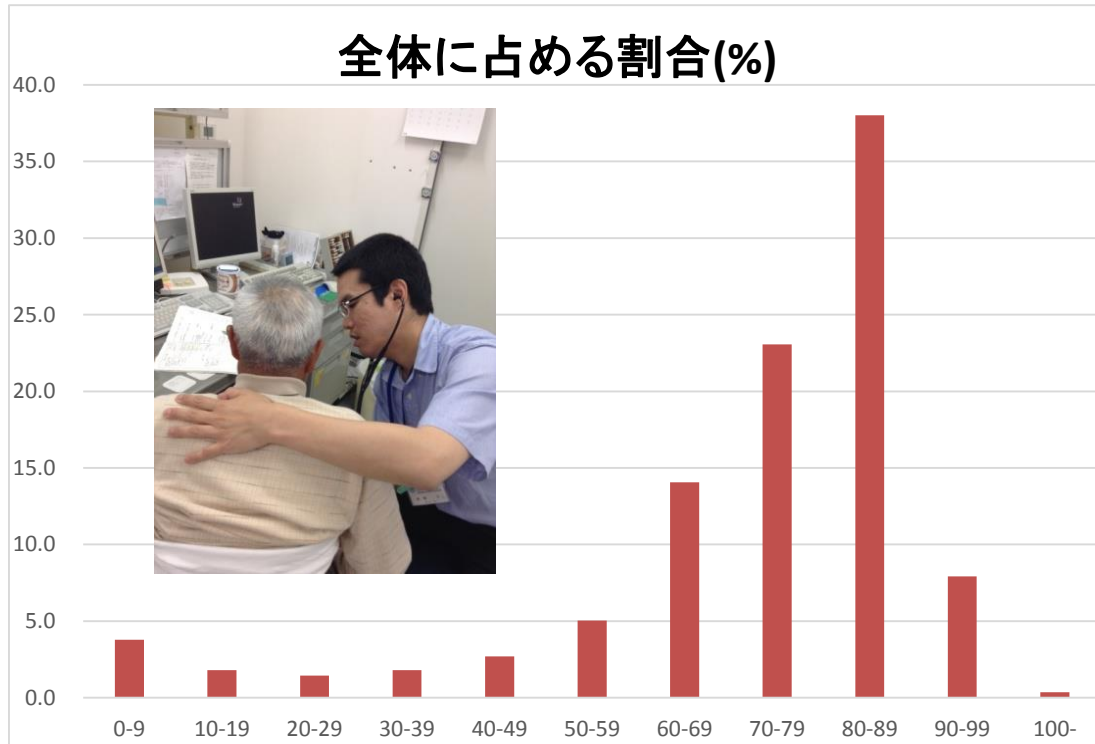
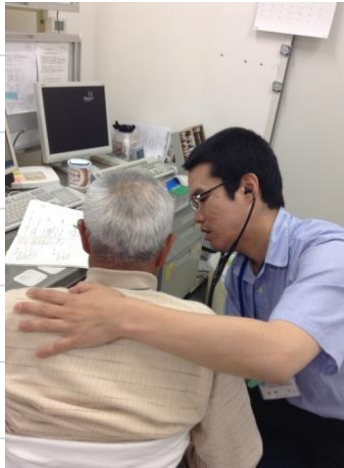


美和診療所は前身も含めて約40年の歴史があります。そのうち約30年は自治医科大学の卒業生が派遣され、この地域の医療を守ってきました。

午前中の外来診療、午後の訪問診療が業務の中心ですが、その他には予防接種（小児・成人）・乳幼児検診・成人の健康診断（集団受診の立合いや個別受診）・各種会議・講演などがあります

外来診療

全体に占める割合(%)



平成25年1月1日から12月31日までに当院を受診した患者の統計
(予防接種のみは除く)

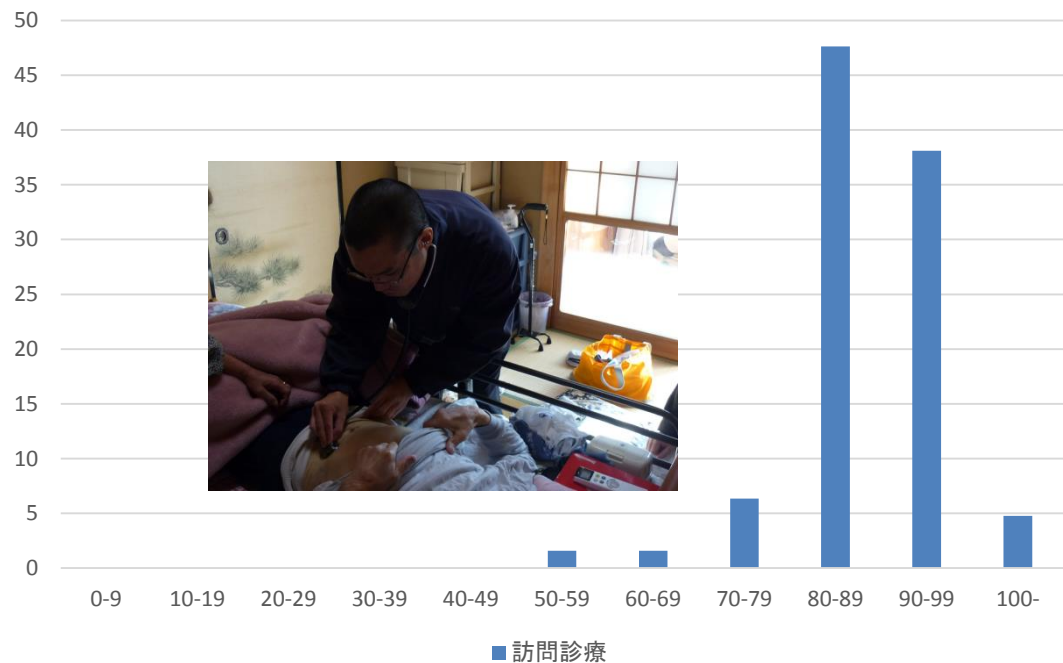
午前中の外来診療では平均すると30名程度の方が受診されます。

多くは内科的慢性疾患の管理ですが、整形外科・皮膚科・小児科領域のご相談も少なくありません。

左のグラフにお示した通り、小児にも小さなピークがありますが、圧倒的に70歳代・80歳代の高齢者の方が受診されています。

訪問診療

全体に占める割合(%)



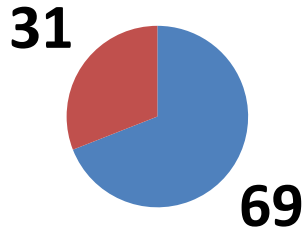
午後は診療所から出て、訪問診療を行っています。1日の平均は3-4件程度で、月あたりの実績は40-50件程度です。

対象としている方は38世帯の42人(平成26年2月1日現在)で、左にお示した通り、80歳代・90歳代の方が多数を占めます。

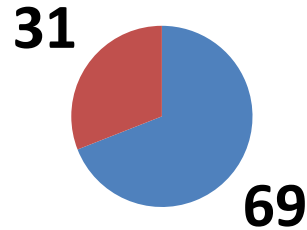
平成25年1月1日から12月31日までに当院で在宅医療(訪問診療または往診)を行った患者の統計

多職種連携の実際

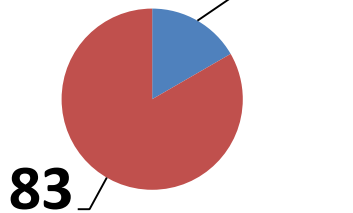
ケアマネージャー



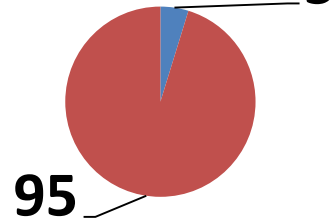
訪問薬剤師



訪問看護師



訪問リハビリテーション



■ 連携あり
■ 連携なし

単位：%

調査日：平成26年2月1日

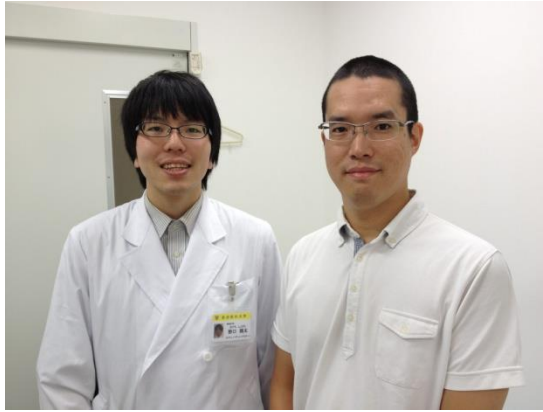
計算方法：当院から訪問診療を行っている患者（人）のうち、各サービス担当者が介入している患者（人）の割合を調べた。

地域医療においては多職種連携が重要なことは論を待ちません。当診療所が提供している在宅医療も多くの職種との連携によって成り立っています。



多職種連携ケアカンファランス

地域医療の最前線、教育の現場として



日本全体の老年人口割合は今後も上がり続け、2060年には約40%になるとの予測もあります¹⁾。すなわち現在の美和診療所での医療は、40年後の日本の医療(の一部)を先取りしている可能性があります。

平成25年度には14名の方のべ22日間に渡って当診療所に視察・見学・実習にいらっしゃいました。

今後も様々な形で情報発信を続けていくことが重要と考えます。

1) 国立社会保障・人口問題研究所、「将来人口推計(平成24年1月)」の出生中位・死亡中位仮定による

<http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/newest04/con2h.html> (平成26年3月2日参照)

義務年限内に訪問診療に取り組む意義

私は卒後7年間まで地域中核病院を中心に、主に外来・検査・病棟・救急という生活を送っていました。

与えられたそれぞれの場所で、自分なりの課題を見つけ、それに取り組んでいたらあっという間に義務年限も終わりが見えてきたというのが偽らざる感想です。

今年度から訪問診療を担当し、慣れない中で大変ではありますがやりがいを感じています。その理由の一つにはこれまで以上に患者さんの生活に密着して医療を提供する必要があることが挙げられます。

今後、私がどのような場で医療を行っていくとしても、「患者さんの生活を想像する」という習慣は無くなることはないように思います。

おわりに、そしてこれから

学生の皆さまへ

これから医療の現場にでることに不安を持っている方もおられることと思います。大変なこともあります。やりがいがあってお一人お一人が輝くことのできる場所が必ずどこかにあります。学生生活を目一杯楽しんでください。

自治医科大学のネットワークはとても強力です。美和地区の医療は那須南病院・常陸大宮済生会病院におられる卒業生の皆さんのバックアップに支えられています。

教職員の皆さまへ

“General mind”は知らず知らずの内に私の“遺伝子レベル”に刻み込まれ、医師としての姿勢に大きな、良い影響を与えてくれています。

困難に直面したとき、「自治医科大学で出会ったロールモデルの方たちであればどうしたのだろうか」と考えることが、前に進むための大きな力となります。

この場をお借りして自治医科大学で受けた教育に改めて感謝申し上げます。

読んで頂きありがとうございました。

ご意見・ご感想をいただけますと大変励みになります。
よろしく願いいたします。

自治医科大学から当診療所までは自家用車で約90分で到着できます。学生のみなさまで当診療所での見学・実習をご希望の方がいらっしゃいましたら下記までご連絡下さい。歓迎いたします！！

連絡先：秋根 大(あきね だい)

dai-akine @ umin.net